大 洲 民 報 | 2017年3月19日 | 日本共産党 大洲市委員会 | 23-3271 39-2915

大洲市３月定例議会

～日本共産党　梅木かづこ の 議会報告　その１～

１．大洲城の整備について

大洲城は、地元城山・三の丸の皆さんをはじめ、市民のシンボルでもあり、また、お城の見える毎日のなかで、深い愛着を持たれています。だからこそ、天守閣が多くの市民の方々の寄付などで再建されたと思います。

２月２２日ケヤキが伐採されました。お城を愛してやまない市民の方々から、「立派に育ったケヤキをなぜ伐るのか、石垣への影響はケヤキではないのではないか？」、「ケヤキは夏場お城に上がったら、日陰になりほっとできる場所を提供している」、「お城のシンボルでもあるケヤキを残してほしい」、「ケヤキを切る時期は２月に伐るのは不適切ではないか。」など声が寄せられました。

１本目のケヤキが切られた、２２日の朝、城山の住民の方々や区長さんはじめ１０人ほどでケヤキにお別れの会をされたようです。「この伐られたケヤキは、高価だと聞いています。今後どのように生かされていくのか。使い道がわからないようにしないでほしい。」など市民の皆さんからの声です。市民の方々のこうした声に対して、大洲市としてどのようなお考えで、説明対応されているのでしょうか。

＜答弁＞　平成２５年の植栽整備計画に基づいてケヤキを伐採した。肱北・肱南、久米で説明会を開いた。

パブリックコメントをされましたが、何人からどの様なご意見が寄せられましたか。

＜答弁＞　パブリックコメントは、市内・県内２人からあった。「石垣に影響あり、本丸に不釣り合い。伐採すべき。」もう一つは、「美しい天守閣にケヤキは不釣り合い伐採すべき」だった。

城山公園整備計画では、新植樹木は常緑高木、くろまつなど１本、落葉樹山桜、里桜など１本としています。お城のどこにどのように植樹する予定ですか。

＜答弁＞　常緑樹・落葉樹各一本。残り２本を伐採したあとに石垣に影響のないところにしたい。

旧沢松邸があったところの石垣に、普通の石で石垣が上乗せされています。お城に歩いていく前面にあり、景観を壊していると、観光客の方からも指摘されるようです。整備するおつもりはないですか。二の丸の西側の石垣を修復するのにどの程度の経費を見込んでいますか。またいつから修復を始める予定ですか。

＜答弁＞　元の状況に戻していく事が必要とは考えてるが、まずは崩落・大きなはらみのでているところ、緊急度の高いところからしたい。二の丸西側は来年度から２カ年でやる。1億2000万円を見込んでいる。

二の丸曲輪には、蚕糸業功労者表彰碑が３年以上横倒し状態です。旧大洲の近代化のシンボルでもあり、蚕糸産業の足跡を示す顕彰碑です。かつては中江藤樹碑の横にあったようですが、土の上によこ倒しにしている理由と、今後、どのようにするのかお答え下さい。

＜答弁＞　二の丸公園用地取得などで仮置きしていた。歴史に詳しい方々から、かつて蚕糸会社があった下台所付近に移設してはどうかというご意見を頂いている。できるだけ早く適所に移転したい。

今後の城山公園の整備計画を具体的に明らかにしてください。戦（いくさ）をするお城の城内には、かつては燃料や油として使う松、食料になる梅、ぎんなんなど生活に役立つ樹木が植えられていたようです。非常食にゼンマイを壁に煉り込んでいたともいいます。大洲城をどのようなお城にするのか、市民の皆さんとじっくり練り上げてもいいのではないかと思いますが、いかがですか。

＜答弁＞　文化的遺産、又身近な公園・観光地という２つの側面から環境整備していきたい。なお、石垣保全の立場から樹木の伐採、樹生の衰えた桜の更新などしていく。ケヤキは、史跡保護の立場から、伐採すべき樹木。伐採したケヤキの根を今後発掘調査し、現地調査をおこない、残り２本も早ければ来年２月頃に伐採したい。